

2017/3/18

(日々雑感 52)



今日、春の臭いに誘われて繰り出してきた家族連れであふれる街を歩いていると、なんとも
言えない違和感に襲われ「軸がずれている」のを感じました。

一つか二つ、三つか四つ、いや、五つも六つも、あるいはもっともっと、殆ど大半のような。
目が捉えた映像を脳のどこかの部分に送る度に「アンマッチ、アンマッチ」と小さなワーニ
ング・ブザーがかすかに鳴るのです。頻繁に、うるさいくらいに。

多分ヘンな生活をしているぼくの側に問題があるのだとは思いますが、そうではなかつ
た場合、話がいささか厄介になりそうです。

仮にぼくのアタマの中のワーニングが正しかったとすると、一つや二つではなく、それこそ
全体的に軸が大きくずれていて、そのずれた軸の上に全てが成り立っている、あるいは積み
上がっている可能性があるからです。

これでは、いざ事が起こったときに、ひとたまりもありません。一挙に多くの人たちの生活
や精神が瓦解し、あっという間に多数の不幸な人たちを生んでしまうこととなります。

別に弾道弾ミサイルが飛んでくるとか、再稼働原発が大爆発をすとか言うことではあり
ません。目に見えない何かです。見えないだけによほど不気味です。

軸が一人だけずれているなら、ヘンだと気づきますが、みんな一緒に同じ距離だけずれてい
ると、あたかも何もずれていないような錯覚に既に陥っていても不思議はありません。

当然当人達には、一体何が起こったのかの状況判断や理解が出来ませんから、大混乱に陥る
ことが予想されます。事前の多数決の結果に反して、事後は想定外の正否の答えが待ってい
る可能性。その時、多数決が必ずしも正しいとは限らない事を痛感する。しかし、その認識
獲得は、時既に遅し、になっているのかもしれない。

会社の断絶、親会社の崩壊を事前に察知、予測し、当初「妙なこと言うヤツだ」と言われな
がらも、それをかわして今日に至っている経験から、今回の予感もあながち外れるとは限ら
ない気がしたりしています。

ただ、これは当たって欲しくない予感です。あまりにも犠牲と損失が大きすぎ、自分だけ上
手くエスケープできたのを吉とする事では済まないからです。

こればかりは、多くの人が手を携えて、事前に協力し合わないと防ぎようがありません。それは、それこそ超弩級で破格な規格外の至難業（わざ）です。

ですので、今回だけはおかしな生活をしている「自分一人がずれている」ことを、心から祈りたい気分になりました。今回だけは外れることを「祈るばかり」です。

ほんとうに。